

2-2. 利便性・にぎわい・回遊性

(1) 駅前広場、商店街などにおけるオープンスペース・歩行環境

1) 駅前広場の交流機能—まちの玄関口として—

- ・荻窪駅北口駅前広場は、阿佐ヶ谷駅や高円寺駅と比べて許可件数が少なく、特に祭り・イベントや撮影が少ない傾向にあり、オープンスペースの不足が要因の一つである可能性があります。(表8)
- ・「日常的にちょっとしたイベントができるような広場・オープンスペースはほとんどない状況」との意見があります。

	荻窪駅 駅前広場	阿佐ヶ谷駅 駅前広場	高円寺駅 駅前広場
公共イベント等※ ¹ への貸出件数※ ²	24件	54件	71件
防犯等の普及啓発活動(官公庁等)	14件	29件	31件
祭り・イベント	4件	11件	20件
撮影(番組制作会社等)	0件	7件	13件
防災訓練	3件	0件	1件
その他※ ³	3件	7件	6件
乗降人員(1日)※ ⁴	262,047人	89,332人	100,678人
駅前広場の整備状況	北口広場 3,460㎡	北口広場 2,520㎡ 南口広場 3,130㎡	北口広場 3,474㎡ 南口広場 2,758㎡

※1 公共イベント等とは、区により駅前広場の使用について許可を得たイベントを指す。

※2 阿佐ヶ谷駅、高円寺駅の許可件数は、北口広場、南口広場の合計

※3 その他は募金活動、相談会等を指す。

※4 各鉄道会社HP掲載データ(平成28年、JR中央線・総武線については乗車人員×2)

表8：区内のJR中央線・総武線鉄道駅における駅前広場の公共イベント等への貸出状況

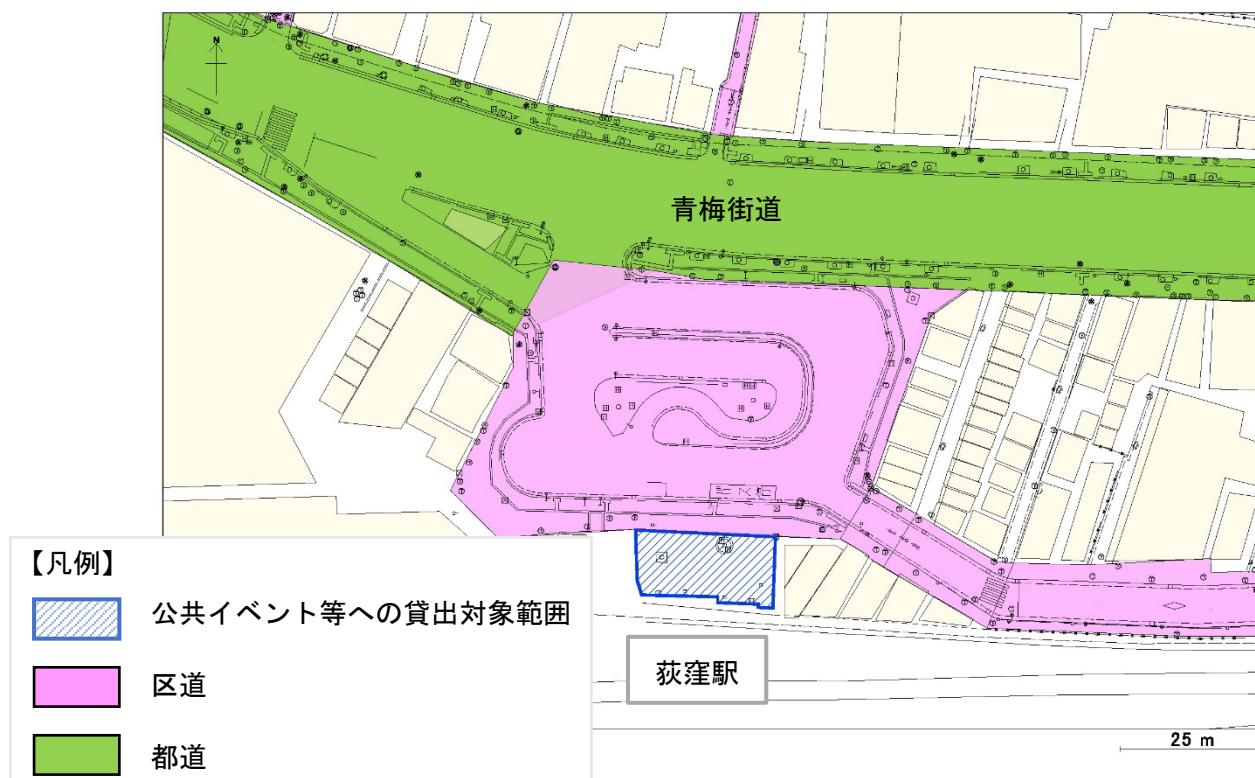


図31：荻窪駅駅前広場の公共イベント等への貸出対象範囲図

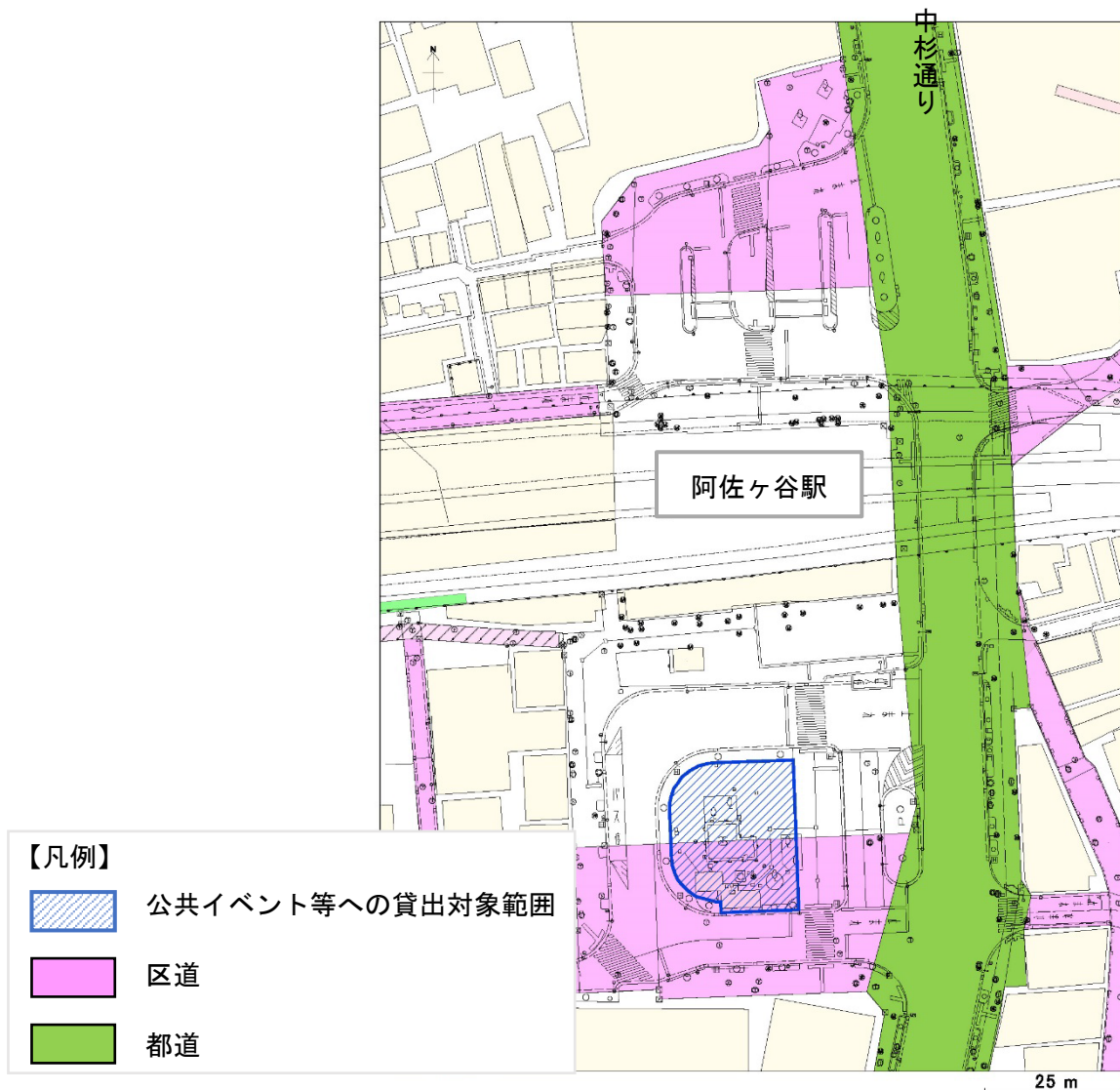


図 32 : 阿佐ヶ谷駅駅前広場の公共イベント等への貸出対象範囲図

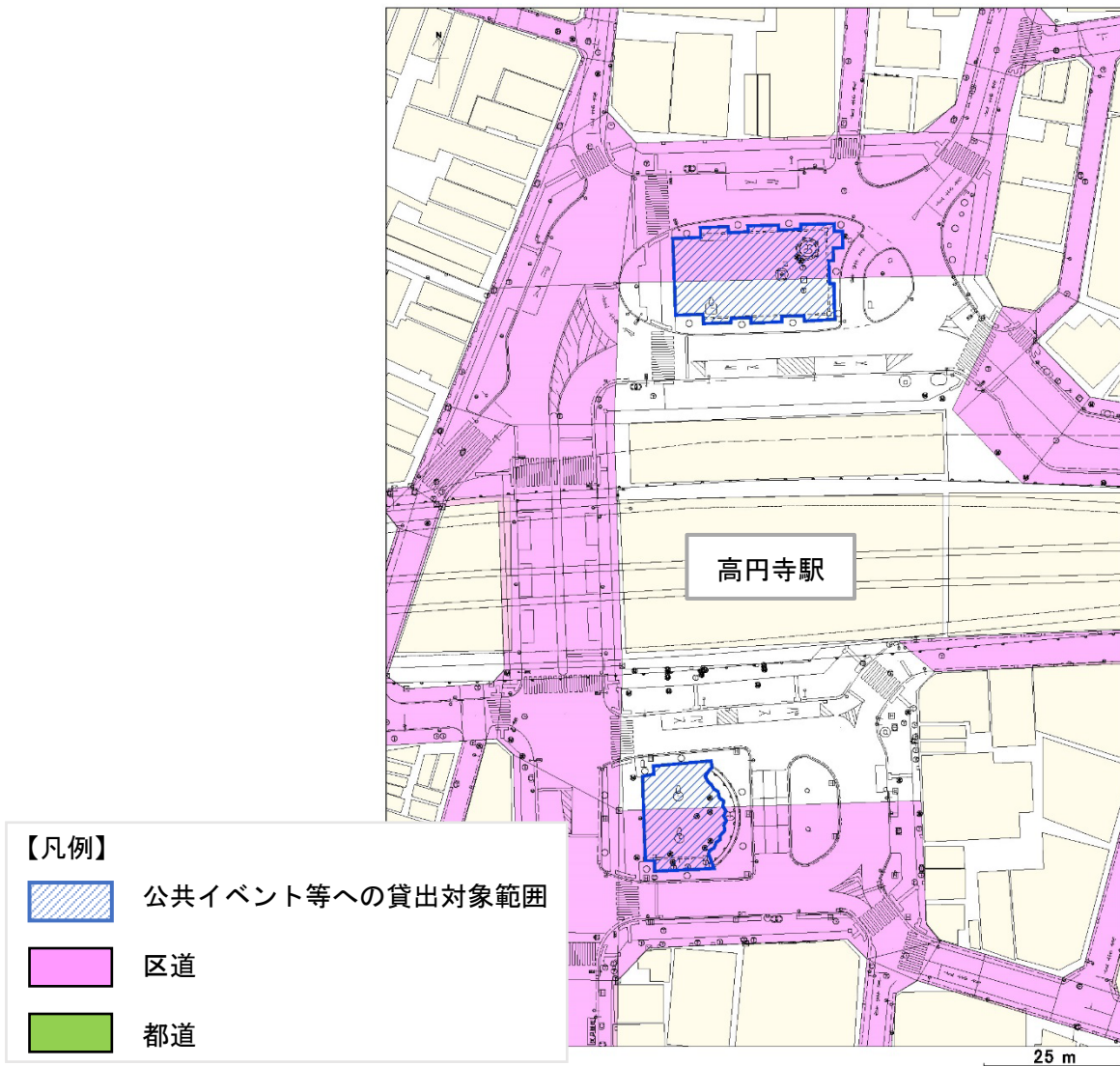


図 33 : 高円寺駅駅前広場の公共イベント等への貸出対象範囲図

2) まちなかでの休息

- ・「高齢者が増加するなか、まちなかに人が休息できる場所が少ない状況」との意見があります。

3) 商店街での自転車利用状況

- ・商店街において往来する自転車が歩行者の間を縫って走る状況が見られるなど、歩行者と自転車とが錯綜しています。(写真3)
- ・荻窪駅周辺では、自転車駐車場の整備が進み、目標とする収容台数は確保されており、通勤・通学者による放置自転車は大幅に減少しました。(表9、10)
- ・一方で、買い物など比較的短時間の駐車の際に、近くに自転車駐車場がないからという理由で、店舗前面などに自転車が駐車されています。そのため、商店街に面した道路には、依然として放置自転車が目立ちます。(写真4)
- ・「買い物に自転車を利用するが、いつも駐輪場の心配が必要で困る。」との意見があります。



写真3：歩行者と自転車の錯綜の様子（教会通り）

写真4：商店街の店舗前面での放置自転車

(平成29年12月22日(金)午前8時撮影)

【駅周辺の自転車利用状況と自転車駐車場整備状況】

	荻窪駅北口周辺	荻窪駅南口周辺
乗降客数(1日平均)※駅全体	255,093 人	
自転車乗入台数(ピーク時)	5,084 台	3,787 台
区立有料制自転車駐車場収容台数	4,569 台	3,770 台
民営自転車駐車場収容台数	808 台	543 台
定期使用申請待機者数(予測値)	283 人	44 人

【整備計画】

	荻窪駅北口周辺	荻窪駅南口周辺
①現在収容台数	5,377 台	4,313 台
②目標収容台数	5,367 台	3,831 台
③差異(①-②)	10 台	482 台
必要台数※	0 台	0 台

※必要台数は平成27年度のピーク時乗入台数に定期使用申請待機者(予測値)を加算して算出

表9：荻窪駅周辺の自転車利用状況と自転車駐車場整備状況、自転車駐車場整備計画

【出典】：『杉並区自転車利用総合計画【改定】』（平成29年3月、杉並区）

(単位:台)

	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
①駐車場内台数	4,842	4,966	4,746	5,352	5,628	6,307
②放置台数	1,836	1,917	1,992	1,834	1,807	1,082
③計(乗入台数)(①+②)	6,678	6,883	6,738	7,186	7,435	7,389
④放置率(②÷③)	27.5%	27.9%	29.6%	25.5%	24.3%	14.6%
参考:区全域での放置率	31.6%	31.8%	31.1%	28.8%	23.8%	20.1%

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度
①駐車場内台数	6,913	7,162	7,268	7,286	7,308	7,279
②放置台数	414	193	164	132	131	131
③計(乗入台数)(①+②)	7,327	7,355	7,432	7,418	7,439	7,410
④放置率(②÷③)	5.7%	2.6%	2.2%	1.8%	1.8%	1.8%
参考:区全域での放置率	13.7%	10.0%	8.6%	6.5%	6.3%	5.8%

	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度
①駐車場内台数	7,740	7,943	8,591	8,831	8,785	8,786
②放置台数	146	164	131	113	86	75
③計(乗入台数)(①+②)	7,886	8,107	8,722	8,944	8,871	8,861
④放置率(②÷③)	1.9%	2.0%	1.5%	1.3%	1.0%	0.8%
参考:区全域での放置率	6.0%	5.4%	4.7%	4.3%	3.8%	3.5%

表 10 : 荻窪駅周辺の放置自転車の推移

『駅周辺自転車・バイク乗入台数調査』(杉並区)より作成

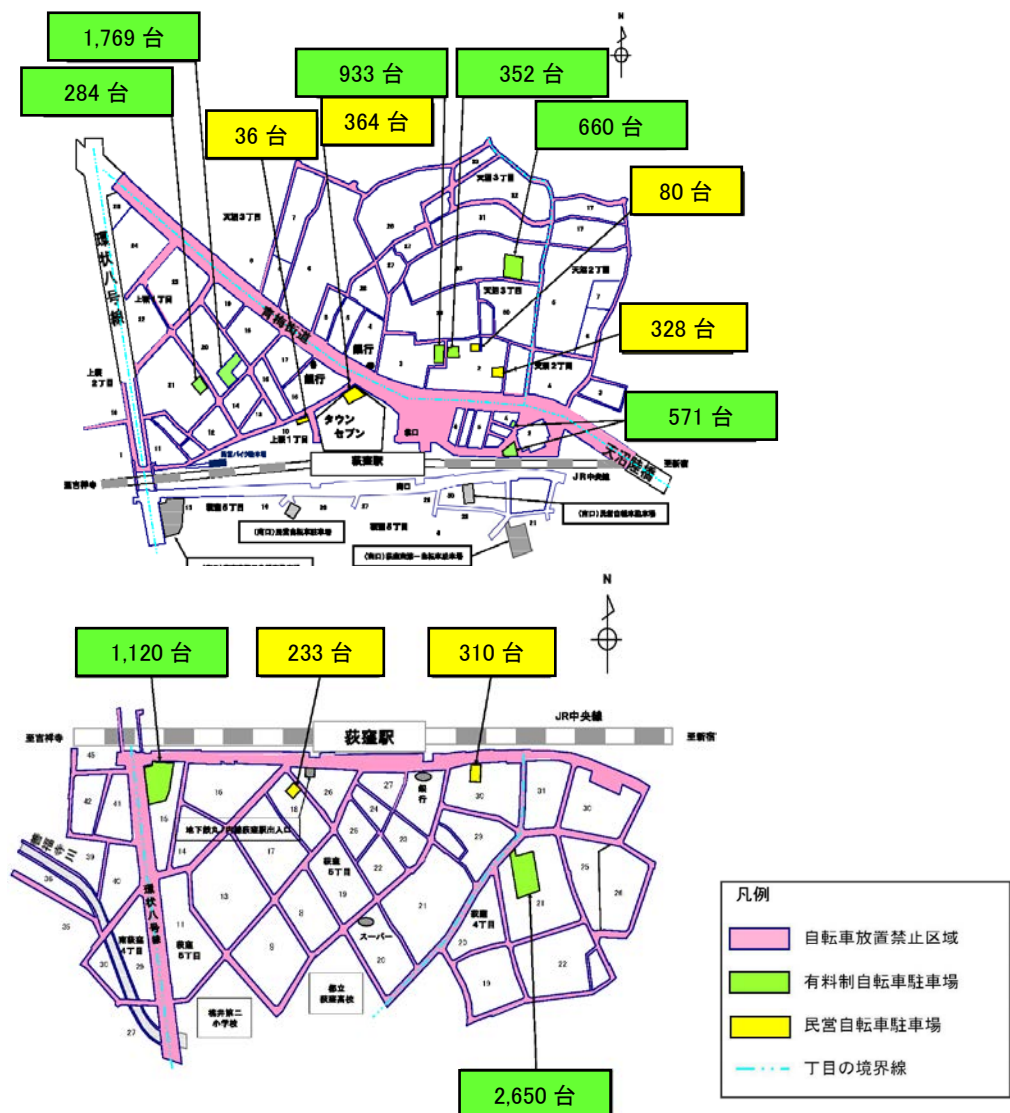


図 34 : 荻窪駅周辺の商店街における自転車駐車場の位置 (上:北口周辺、下:南口周辺)

『杉並区自転車利用総合計画【改定】』(平成 29 年 3 月、杉並区)より作成

4) 商店街での歩行環境

- ・道路の段差や凹凸、道路にはみ出した店舗の看板、放置自転車などで、歩行者が歩きづらい状況が見られます。(写真5)



写真5：道路にはみ出した看板

5) 荷捌き状況

- ・商店街等で、端末物流における路上の荷捌きが、まちの回遊性の阻害要因となっています。
- ・駅構内へは、駅前の区道等に駐車し、台車または手運びで横持ち搬送している状況です。



写真6：荷捌き車両と歩行者の交錯

6) 商店街での交通規制の状況

- ・駅周辺の商店街では、自転車の通行の禁止・制限に関わる交通規制が適用されているところがあります。(図35)

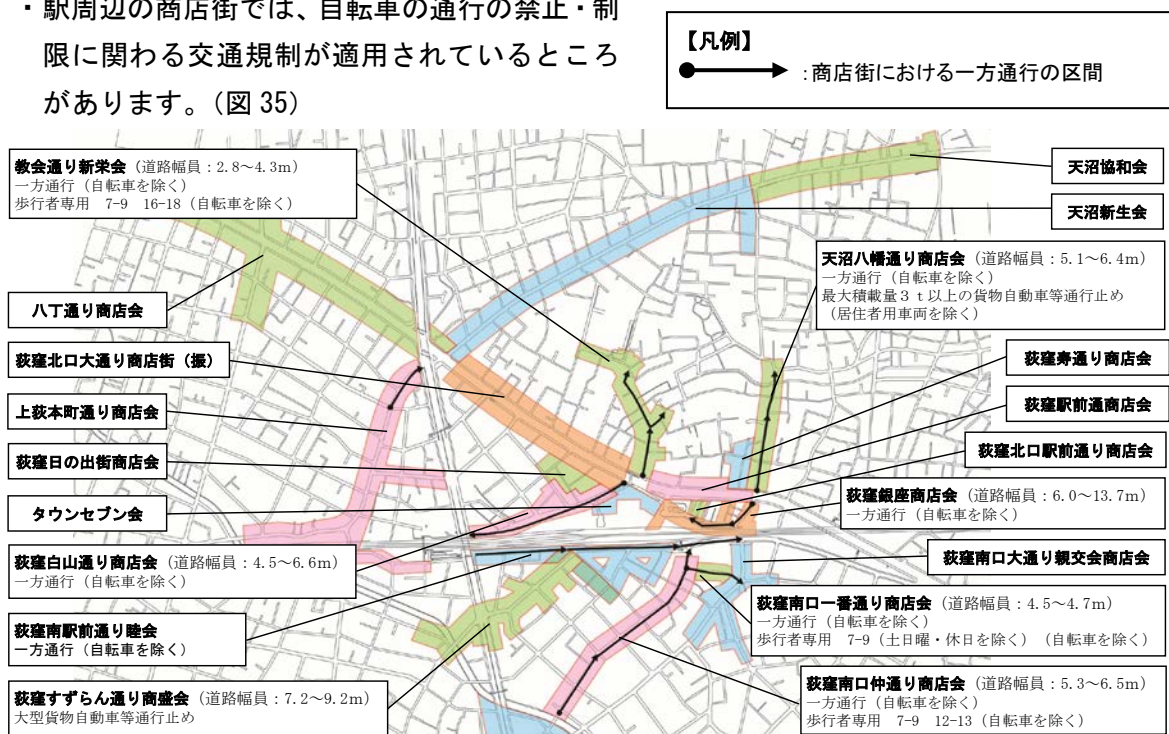


図35：荻窪駅周辺の商店街での交通規制の状況

『杉並区商店街マップ』(平成30年3月、杉並区)より作成

(2) 地域資源等の回遊性

1) 駅や駅前広場における案内・誘導

- ・ 駅周辺施設へのアクセス状況調査の結果、荻窪駅・駅前で「分かりにくい」と感じる人が一定数おり、利便性に改善の余地があることがわかりました。

①案内・誘導（共通事項）

- ・ 「来街者にとっては案内標識や誘導サインが重要な要素となりますが、わかりにくい状況」との意見があります。
- ・ 路線バスにおける多言語化は、ニーズとコストの関係から、実施のレベルを検討している段階です。
- ・ 「多言語化よりも、伝達能力の高いピクトグラムを活用したほうが良い。」との意見があります。

②案内・誘導（駅構内）

- ・ 駅構内の案内図、誘導サイン等は、各鉄道事業者の基準に基づき設置されていますが、調査により、来街者の中には「分かりにくい」と感じる人が一定数おり、利便性に改善の余地があることがわかりました。（写真7～10）



写真7：JR改札前の誘導サインと案内図



写真9：JR改札前の誘導サイン



写真8：東京メトロ改札前の誘導サインと案内図



写真10：南口出口への誘導サイン

③案内・誘導（地上部）

- ・北口駅前広場や南口地上部には案内板が設置されていますが、目的施設への行き方に関する利用者からの問合せも多い状況です。



写真11：北口駅前広場の杉並区情報案内板における施設案内・誘導

2) 駅周辺施設へのアクセス状況

①駅北側エリアの公共・公益施設へのアクセス性

- ・駅北側エリアについては、杉並公会堂、郷土博物館分館、東京衛生病院、ウェルファーム杉並、杉並アニメーションミュージアムなどの公共施設が点在しています。
- ・駅周辺施設へのアクセス状況調査により来街者の中には「分かりにくい」と感じる人が一定数おり、利便性に改善の余地があることがわかりました。
- ・団体客が杉並アニメーションミュージアム等を訪問する際に、青梅街道で観光バスを乗り降りすることがあり、幹線道路における円滑な道路交通への影響が懸念されます。

② 駅南側エリアの地域資源へのアクセス性

関連計画「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成30年度）」

- 「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、人口減少への対応、地方創生の推進にむけた基本目標と基本目標ごとの今後の方向性に基づく具体的な取組を明らかにした課題別の計画です。
- 「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略」の「【基本目標2】1 地域に根差した観光資源の魅力向上」に、「荻外荘の復元・整備を中心とした観光エリアの整備」が位置づけられています。

- ・ 駅南側エリアには、国指定史跡荻外荘、大田黒公園、角川庭園などの歴史的・文化的資源が点在しています。
- ・ あわせて、区では、「荻外荘」の史跡としての価値を一層高めるため、豊島区へ移築された建物を再び荻窪の地に戻し、復元・整備を進めます。
- ・ 駅周辺の道路は、鉄道に対して斜めに交差していることから、方向を見失いやすい構造になっています。
- ・ 駅周辺施設へのアクセス状況調査により来街者の中には「分かりにくい」と感じる人が一定数おり、利便性に改善の余地があることがわかりました。
- ・ このため、「荻窪駅周辺まちづくり方針」、「杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略」を踏まえ、「荻外荘」をはじめとする歴史的・文化的資源の集積を生かし、区民や来街者が歩いて楽しめることができるよう、住宅都市としての観光まちづくりを進める必要があります。（図36、写真12～16）
- ・ また、区が実施したWEBアンケート調査によると、荻外荘への訪問手段・方法として必要とされるものは、「街歩きマップ、パンフレット」に次いで、「荻外荘までの案内看板」の回答が多くなっており、荻外荘までの案内看板を必要とする割合は、高齢者になるほど高くなる傾向にあります。
- ・ 駅北側エリアの公共・公益施設へのアクセス性と同様に、団体客が大田黒公園等を訪問する際に、青梅街道で観光バスを乗り降りすることがあり、幹線道路における円滑な道路交通への影響が懸念されます。

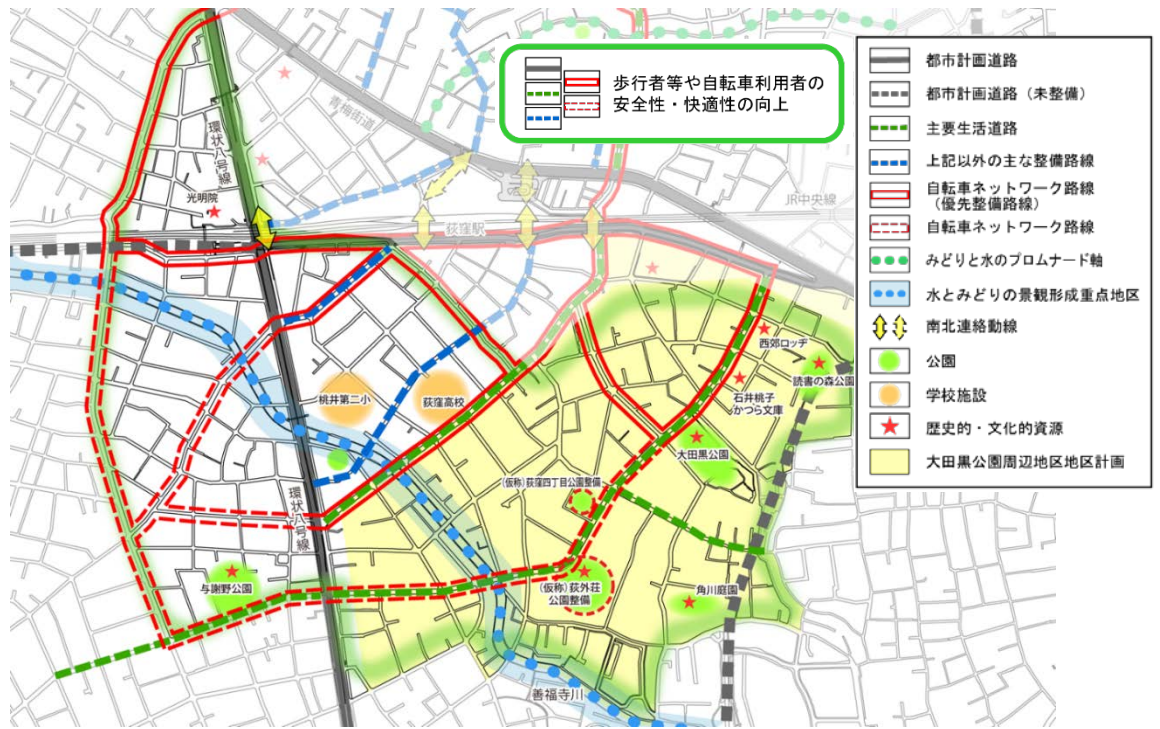


図 36 : 駅南側エリアの主な取組の方向性

【出典】：『荻窪駅周辺まちづくり方針』（平成 29 年 4 月、杉並区）



写真12：荻外荘
【荻外荘（近衛文麿旧宅）
国の史跡（平成28年3月指定）】



写真13：大田黒公園
【旧大田黒家住宅洋館、旧大田黒家住宅蔵
国の登録有形文化財（平成28年11月登録）】



写真14：角川庭園・幻戯山房
【幻戯山房（旧角川家住宅主屋）
国の登録有形文化財（平成21年11月登録）】



写真15：区設置の案内・誘導サイン



写真16：区が住宅地の一角に設置している案内・誘導サイン

(3) 自転車利用の利便性

1) 新たな活用スタイル

- ・自転車活用推進法（平成 29 年 5 月施行）においては、シェアサイクル施設の整備が、重点的に検討・実施する施策として示されました。
- ・また、すぎなみフェスタ（平成 29 年 11 月開催）で実施したアンケートにおいて、回答者の約 7 割がシェアサイクルの存在を認知しており、更に、そのうちの 7 割が利用したいという意向を示すなど、区民の関心が高まっています。このことを受け、シェアサイクルの導入に向けた検討を進める必要があります。（図 37）

東京自転車シェアリングとは？

東京都内 9 区（千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、品川区、大田区、渋谷区）において、9 区すべてのポートで貸出・返却することが可能となります。

※練馬区では返却できません。

実験期間	2016年5月1日（日）以降も当面の間、継続して実施いたします。
対象地域	千代田区、中央区、港区、新宿区、文京区、江東区、品川区、大田区、渋谷区 ※サイクルポート470か所、自転車5,600台（2018年6月末時点） 今後順次拡大予定です。
ご利用料金	追加料金なく、現在のご利用料金のままご利用いただけます。



練馬区シェアサイクル
平成 29 年 10 月 1 日開始
事業主体：練馬区
運営：株式会社ドコモ・バイクシェア

単独（貸出返却は区内のみ）

がやりん
平成 19 年 3 月開始
事業主体：世田谷区
運営：公益社団法人世田谷区シルバ
ー人材センター

単独（貸出返却は区内のみ）

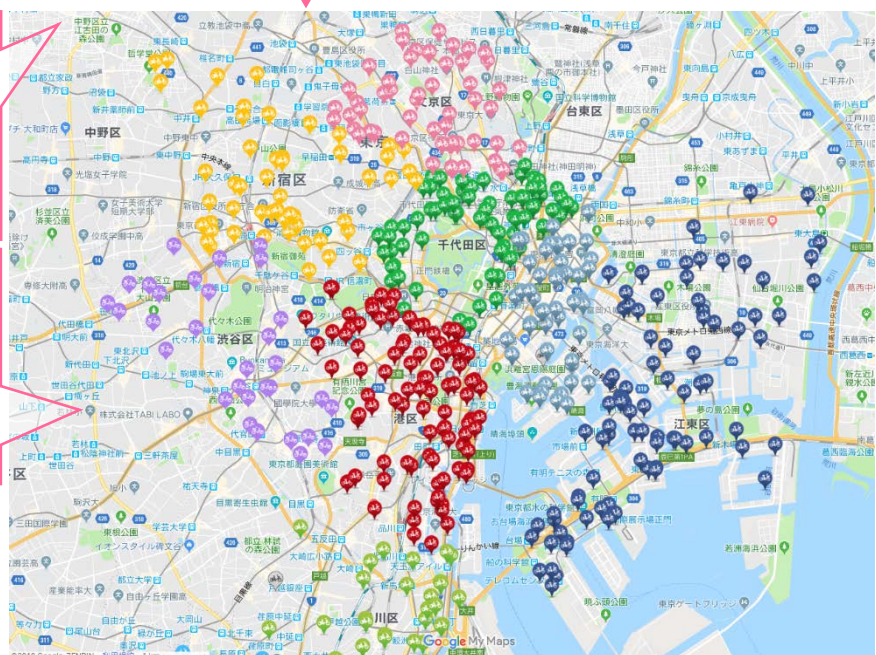


図 37：東京自転車シェアリング（地図：サイクルポート位置）

【出典】：株式会社ドコモ・バイクシェア HP（平成 30 年 10 月時点）